

研究主題 「見方・考え方を働かせて課題解決できる生徒の育成」～主体的・対話的で深い学びを通して～

単元を貫く問い 武士を中心とする社会は、どのように作られていったらうか

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(●)
 【小学校第6学年】
 ◆知識及び技能
 ・源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解している。
 ・遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめている。
 ◆思考力・判断力・表現力等
 ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な時代を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現している。
 ●武士の暮らし 源平の戦い 鎌倉時代 元との戦い 等

本単元の目標

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

学びに向かう力、人間性等

・鎌倉幕府の成立に関する学習を振り返ることで、鎌倉幕府が衰退していった理由について予想し、幕府が直面する課題について、追究しようとしている。

単元終了時のめざす生徒の姿

・天皇や貴族の政治との比較から武家政治の特徴を捉え、武士が台頭して、武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。
 ・天皇や貴族の政治との違いから、古代から中世の転換の様子に気づき、表現している。
 ・既習内容と関連づけて、これからの時代の流れを予想し、追究しようとしている。

知識及び技能

・鎌倉幕府の成立の過程について、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解する。

思考力・判断力・表現力等

・天皇や貴族を中心とする政治から武士を中心とする政治へと変化していった当時の社会の様子について、社会的な背景や時期、推移、朝廷と幕府の関係などに着目して多面的・多角的に考察し、それらを関連づけることを通して、表現する。

この単元からつながっている領域の付けたい力(◆)と内容(●)

【第1学年】
 ◆南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。
 ◆農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。
 ◆中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察する。
 ●武家政治の展開とアジアの動き 民衆の成長と新たな文化の形成

社会的活動

課題を把握し、解決すべき課題を設定して、課題を追究したり解決したりする 活動

諸資料から必要な情報を適切に選択し、有効に活用し、歴史に関わる事象を結び付けながら、まとめる 活動

意見交流や情報交換を通して、多面的・多角的に考察し、表現する 活動

課題把握

課題追究

課題解決

社会的活動を繰り返しながら、様々な角度から社会的な事象を捉え、いろいろな立場にたって、思考・判断し、表現する。

【2時間】

〈学習への動機付けや見通しをもたせ、武士の政治への進出と展開などについて、課題を設定する。〉
 ①武士の誕生
 (めあて)武士はどのようにして起こったのだろう
 ○小学校の学習と関連させて、武士のイメージや役割、貴族との関係性等について、「武士とは何か」を共有する。
 ○生徒の疑問や言葉から「単元を貫く問い」(課題把握)を設定する。
 ②平氏政権
 (めあて)武士で初めて政権を握った平氏はどのような政治を行ったのだろう
 ○平清盛の政治と摂関政治、院政を比較し共通点や武士・貴族・上皇の考えや立場を思考する。

【4時間】(本時2/4)

〈武家政治の成立の背景と推移に着目し、また天皇や貴族の政治との違いに着目して、古代から中世への転換の様子に気づく。〉
 ①鎌倉幕府の成立
 (めあて)源氏はどのような政治をめざしたのだろう
 ○鎌倉幕府の場所、しくみ、御恩と奉公の関係などを基に、武家政権の成立を理解する。
 ○天皇や貴族の政治と比較し、その違いに気づく。
 ②武家政権の支配の広まり
 (めあて)承久の乱によって、朝廷と幕府の関係はどのように変わったのだろう
 ○資料をもとに承久の乱での武士の動きや承久の乱後の幕府の影響に着目して、武家政権が拡大したことを思考し、説明する。
 ③鎌倉時代の人々の暮らし
 (めあて)鎌倉時代の武士や農民はどのように生活し、力をつけようとしたのだろう
 ○資料をもとに小学校の既習内容と関連させ、武士の暮らしや農民の暮らしの発展に着目して、武士と農民の関係について思考し、説明する。
 ④鎌倉文化
 (めあて)鎌倉時代の文化と仏教は、これまでの時代とどこがどのように違うのだろう
 ○図や写真等の資料を活用して、武士の文化の特色を考察し、表現する。
 ○新しい仏教が、人々の間に広まっていったことを理解する。

【1時間】

単元のまとめ
 学習の振り返り
 〈単元を貫く問いについてまとめる。〉
 (めあて)はじめて成立した幕府は、どのように作られ、どのような政治を行ったのだろう
 ○武士が政権を担うようになった歴史の中で、「キーワード」を基に出来事や原因・理由、影響などを思考し、説明する。
 ○これまでの歴史的事象や小学校の既習内容と関連づけて、これからの政治の動きにつなげていく。

評価規準

【思・判・表】

・武士がおこった背景や、武士団として勢力を伸ばしていった理由について、朝廷との関連をふまえて考察し、表現している。

【主】

・武士のおこりや出来事を通して、時代の転換の様子に関心をもっている。

【知・技】

・土地を仲立ちとした将軍と御家人との主従関係のしくみが、武士の暮らしと深くかかわっていることを理解している。

【思・判・表】

・承久の乱により、幕府の勢力が西国に及び、支配が拡大していくことを考察し、表現している。
 ・鎌倉時代の文化の特色について、武士の台頭や民衆の暮らしの変化など社会的背景と関わらせて考察し、表現している。

【思・判・表】

・既習内容を比較したり関連づけたりしてまとめ、考察し表現している。
 【主】
 ・時代の転換の様子に関心をもち、次の流れをイメージしている。

時期、年代など時系列に関わる視点、諸事象の推移に関わる視点、類似、差異、特色など諸事象の比較に関わる視点、事象相互のつながりに関わる視点などに着目して、比較したり、関連させたりして、多面的・多角的に考察している。

歴史に見られる諸課題について複数の立場や意見を踏まえて選択・判断している。

見方・考え方を働かせている生徒の姿

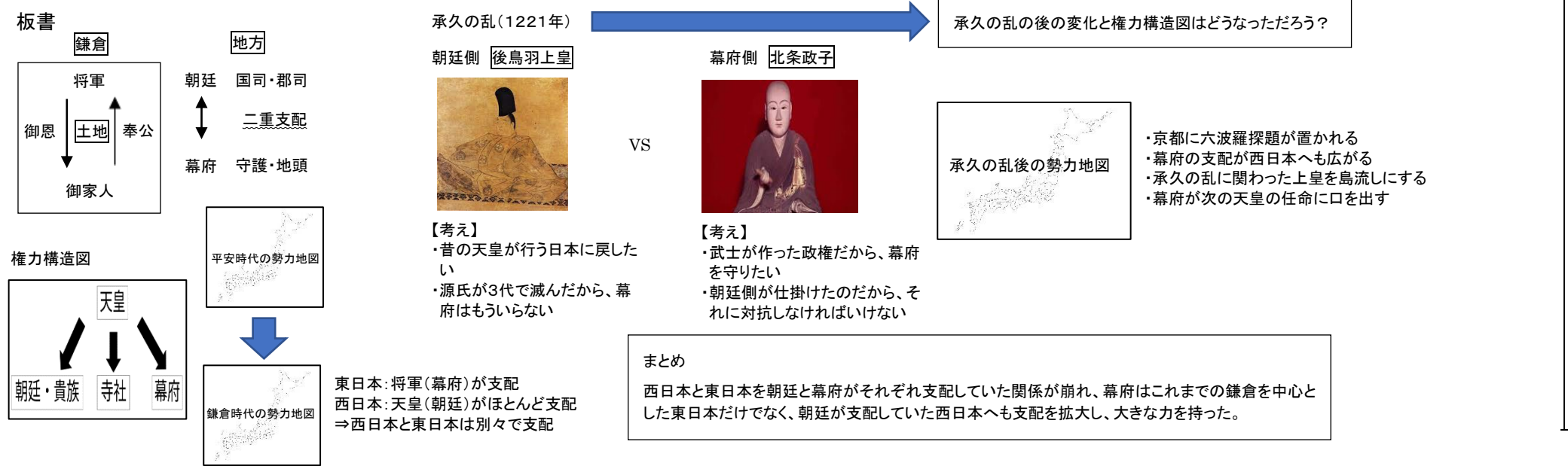
生徒の実態と指導観

単元テストや標準学力調査等をもとに分析した中間検証では、身近なことや生活に関連づけて考えられる問題の正答率は高いものの、基本的な語句や内容が十分に定着していないことや、資料を活用して比較したり関連づけたりして思考し、表現することに弱さがあるなどの課題がみられた。また生徒アンケートにおいて、社会科は覚えることが多い、言葉や漢字が難しい、小学校の学習との違いへの戸惑いなどの意見が多く、社会科に対する苦手意識をもつ生徒が多かった。歴史的分野の学習では、小学校の学習と関連させ、既習の歴史的事象と事象を時期や年代、推移、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、資料を活用して思考し、結び付ける活動を通して、点と点の事象を線で結び付け、原因や理由、影響などを考えさせていきたい。さらに、大陸や世界の動きとの関連性に気づかせていきたい。

【本時の目標】 承久の乱前後の変化について、朝廷と幕府の関係に着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。(本時 4/7時間)

【本時における社会的な見方・考え方】 資料から承久の乱前後の朝廷と幕府の関係に着目して、事象を相互に関連付けて武家政治の展開をとらえる。

問 題 武士を中心とする社会は、どのように作られていったらうか
 めあて 承久の乱によって、朝廷と幕府の関係はどのように変わったのらう



◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て
 (「問題」・「めあて」の工夫、まとめ、発問、活動など)

中世の世の中を見ていくときに、武士のイメージから「武士はいつ登場したのらう?」や「武士が中心となる時代はいつから?」といったような疑問を持たせるように仕組み、「武士を中心とする社会は、どのように作られていったらうか」という単元を貫く課題を設定する。武士が台頭して、武家政権が成立し、その支配が広まるという、武家政治の成立と推移や、東アジア世界が鎌倉幕府にもたらした影響を、資料から考え、判断し、表現することで学習を深めていく。

また、資料から歴史的な事象をもとに考える視点として、「何が変わったのか?」、「どう変わったのか?」といった変化や推移の視点だけでなく、「なぜ変わったのか?」という事象相互のつながりに関わる視点に着目させ、時代の転換の様子や各時代の特色について考察できるように支援していく。

承久の乱に注目し、めあてを設定する

承久の乱後の変化について、幕府と朝廷の関係に着目して、資料をもとに考察し、表現する(思・判・表)

まとめ・振り返り

【前回の学習を振り返る。】
 T 前回の学習を振り返って、鎌倉幕府はどのように政治をしていたのでしょうか?
 S 御恩と奉公の関係ができました。
 S 地方に守護と地頭を置きました。
 T 朝廷は地方に何を置いていましたか?
 S 国司・郡司を置いていました。
 S ということは二重支配になっていた。
 T そうですね。朝廷と幕府の両方が支配していた形になりますね。

【朝廷と幕府の関係を資料から考える。】
 T では、それまでの幕府と朝廷の関係はどうだったのでしょうか? 権力構造図から「幕府」の位置を考えてみましょう。(隣同士や班で考える→発表)

幕府と朝廷の関係を権力構造図から考える。

S 天皇よりも上の位置にはいかならないと思います。なぜなら、征夷大将軍の位は天皇から与えられるものだからです。
 T そうですね。では、資料の勢力図から平安時代と鎌倉時代ではどのように変化したのでしょうか?(資料を見ながら発表させる。)

勢力図がどのように変化したのかを考える。

S 将軍になって、幕府を開いたから、東日本を治めている。
 S 西日本は、天皇(朝廷)がほとんど支配している。
 S この頃は、天皇(朝廷)と将軍(幕府)が西日本と東日本をそれぞれ支配している状態でした。

【鎌倉時代の年表を見ていく中で、承久の乱に注目する。】
 T そうでしたね。幕府ができてからしばらくして少し動きがあります。
 ※電子黒板に年表を示し、幕府成立後の動きを確認する。
 S 頼朝が亡くなっている。

T では、これからどうなると考えられますか?
 S 2代目の将軍が出てくる。
 T なるほど、そうですね。では、年表を続けます。
 S 2代、3代の将軍が殺されている。
 S 御家人も次々と殺されている。
 S 幕府は大丈夫かな?
 S 北条氏が執権として政権を握っている。
 ※年表に承久の乱を表示する。
 S 争いが起こったんだ。どんな争いなんだろう?
 T 承久の乱はどんな人たちと戦ったと思いますか?
 S 天皇や貴族かな?
 T いい所に気が付きましたね。なぜそう考えましたか?
 S これまでは、天皇や貴族が日本を支配していたけど、幕府が支配を強めたから、天皇や貴族が幕府を倒そうとします。
 T そうですね。今までの歴史の流れをよく理解していますね。

【承久の乱について、朝廷側(後鳥羽上皇)と幕府側(北条政子)の両面から考える。】
 T では、承久の乱はなぜ起ったのでしょうか?(資料を読む→発表)

承久の乱について、朝廷側と幕府側の両面から考える。

T 朝廷側はどうでしょうか?
 S 昔の天皇が行う日本に戻したかったからだと思います。
 S 源氏が3代で滅んだから、幕府はもういらぬと考えたからだと思います。
 S 北条氏が幕府の代わりとして力をもつのはおかしいと考えたからだと思います。
 T 幕府側はどうだったのでしょうか?
 S 武士が作った政権だから、幕府を守りたいと考えたと思います。
 S 朝廷側が仕掛けたのだから、それに対抗しなければいけないと考えたと思います。
 T この戦いでどちらが勝つにしても、幕府と朝廷の関係は変わりそうですね。では、これをめあてにしていきましょう。どういうめあてにしましょうか?

めあて 承久の乱によって、朝廷と幕府の関係はどのように変わったのらう。

【承久の乱以後の朝廷と幕府の関係を資料から考える。】
 T では、資料から結果も含めて承久の乱による変化を考えてみましょう。考えたことをもとに、班で権力構造図を変えてみましょう。その際には、資料を根拠に説明できるようにしましょう。(個人思考→班の共有→発表)

①承久の乱の結果となぜそう考えたのかを資料から考え、付箋に記入する。
 ②記入した付箋を班で共有し、新たに資料から考えたことももとにして権力構造図を考える。

(予想される個人の考え)
 S 承久の乱前後の勢力図の資料から、西日本で守護が交代している国がある。
 S 承久の乱後の勢力図から、上皇が地方へ流されています。
 S 幕府のしくみの資料から承久の乱の後に京都に六波羅探題が置かれています。これは、朝廷を監視して、怪しい行動を取らせないようにするためだと思います。
 S 後鳥羽上皇が負けたので、朝廷が再び攻めてこないように幕府の仕組みを整えているのだと思います。
 S 後鳥羽上皇の誤算の資料から、後鳥羽上皇は幕府の武士団の仕組みを理解してなかったからだと思います。
 S 幕府が天皇の任命権を握るようになったという内容の資料もありました。

(②についての発表)
 S 承久の乱前後の勢力図の資料から、幕府が東日本だけでなく、西日本を支配するようになったり、幕府のしくみの資料から、朝廷を監視する六波羅探題が置かれたりしたから、朝廷より幕府のほうが上の位置になると思います。
 S 幕府が天皇の任命権を握るようになったという資料から、朝廷より幕府のほうが上の位置になると思います。
 S でも、一方で、朝廷は将軍の位を与えるのは変わらず、朝廷と幕府のどちらも任命権があるので、朝廷と同じ位置になると思います。

【まとめと振り返りをする。】
 T では、まとめをしていきましょう。承久の乱によって朝廷と幕府の関係はどのように変わったのでしょうか?
 S 西日本と東日本をそれぞれ支配していた関係が崩れ、幕府はこれまでの鎌倉を中心とした東日本だけでなく、朝廷が支配していた西日本へも支配を拡大した。
 S 幕府が天皇の任命権を握るようになり、幕府は朝廷よりも同等かそれ以上の立場となった。
 S 幕府が全国を支配するようになり、朝廷を監視する六波羅探題が置かれ、幕府は朝廷を揺るがす存在となった。
 T それでは、振り返りをしましょう。「わ、で、ぎ、や」でお願いします。
 S 承久の乱によって、武士の立ち位置や役割がより大きくなったことを考えると、歴史が大きく動いた出来事であることがわかりました。
 S 承久の乱の後に、朝廷が幕府に対して戦いを起こすことはなかったのか疑問に思いました。

<p><指導上の留意点> ・これまでの学習を活用しながら、仮説を立てさせる。</p>	<p><指導上の留意点> ・関連する資料について気づかせ、多面的・多角的に考えさせる。</p>	<p><指導上の留意点> ・授業を振り返ることで、まとめにつなげていき、単元の問題に迫る。</p>
<p><評価規準></p>	<p>承久の乱前後の朝廷と幕府の関係の変化に着目して、多面的・多角的に考察し表現している。【思・判・表】</p>	